

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2022年11月10日
【四半期会計期間】	第22期第2四半期（自 2022年7月1日 至 2022年9月30日）
【会社名】	株式会社コラボス
【英訳名】	Collabos Corporation
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 茂木 貴雄
【本店の所在の場所】	東京都千代田区三番町8番地1
【電話番号】	03 - 5623 - 3391
【事務連絡者氏名】	代表取締役副社長 青本 真人
【最寄りの連絡場所】	東京都千代田区三番町8番地1
【電話番号】	03 - 5623 - 3391
【事務連絡者氏名】	代表取締役副社長 青本 真人
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第21期 第2四半期累計期間	第22期 第2四半期累計期間	第21期
会計期間	自 2021年4月1日 至 2021年9月30日	自 2022年4月1日 至 2022年9月30日	自 2021年4月1日 至 2022年3月31日
売上高 (千円)	1,173,933	1,169,349	2,368,907
経常利益 (千円)	65,117	47,881	76,320
四半期(当期)純利益 (千円)	43,020	27,188	54,265
持分法を適用した場合の 投資利益 (千円)	-	-	-
資本金 (千円)	324,854	324,854	324,854
発行済株式総数 (株)	4,791,600	4,791,600	4,791,600
純資産額 (千円)	1,884,660	1,905,553	1,878,548
総資産額 (千円)	2,300,693	2,335,886	2,374,371
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	9.27	5.91	11.70
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	9.08	5.82	11.49
1株当たり配当額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	80.6	80.3	77.8
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	147,287	40,788	297,382
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	79,419	213,594	174,158
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	44,059	42,464	104,138
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高 (千円)	1,563,319	1,343,325	1,558,596

回次	第21期 第2四半期会計期間	第22期 第2四半期会計期間
会計期間	自 2021年7月1日 至 2021年9月30日	自 2022年7月1日 至 2022年9月30日
1株当たり四半期純利益 (円)	6.18	6.72

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 持分法を適用した場合の投資利益については、持分法非適用関連会社がありますが、損益及び利益剰余金その他の項目からみて重要性が乏しいため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第2四半期累計期間において、当社において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載された「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

経営成績

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の感染対策に万全を期し、ウィズコロナの新たな段階への経済社会活動の移行が進められる中で、景気は持ち直しの動きがみられました。しかしながら、世界的な金融引締め等による海外景気の下振れ、円安による物価高騰の影響、供給面での制約等により、国内の経済環境は依然不透明な状況が続いております。

当社を取り巻く国内クラウド型コールセンター市場におきましては、新型コロナウイルス感染拡大を背景に、在宅勤務が浸透したことでデジタルシフトが加速し、数年ごとに大規模なシステム投資が必要なオンプレミス型からインターネットを通じてシステムを利用する、拡張性が高いクラウド型への移行が顕著化しております。また、昨今のデジタルシフトの流れや官公庁のクラウドシステム導入、DX推進等により、今後はクラウドに抵抗感があった比較的大規模なオンプレミスユーザーにおいてもクラウドの導入が広がっていくものと予想されております。加えて、チャット及びチャットボット、SMS、LINE等の顧客接点の多様化により、一つのサービスや製品だけで良質な顧客体験を満たすことは難しくなっており、他社も含めた製品間連携の強化等によるマルチクラウド運用への対応が求められるとともに、コールセンターで蓄積された情報を活用してマーケティング活動を行う等、コールセンターの役割がコストセンターから、収益を生みだすためのプロフィットセンターへ本格的に移行する過渡期に入ったとの見方も強まっています。

このような環境のもと、当第2四半期累計期間におきましては、引き続きオンプレミス型からクラウド型へのシステム移行及び他社から当社への切り替え提案等に注力するとともに、「@nyplace（エニプレイス）」、「COLLABOS PHONE（コラボスフォン）」及び2020年5月12日に公表した中期経営計画（2021年3月期～2023年3月期）に基づく、新サービス「GROWCE（グロウス）」等を中心とした拡販に努めてまいりました。

新規顧客の獲得については、オンラインセミナー開催によるリード獲得、SEO対策、リスティング広告等のWeb施策等により新規案件の獲得に注力するとともに、既存顧客に対しては、定期的なヒアリング訪問やアンケート調査、システムバージョンアップ等のリテンション活動やクロスセル、アップセルによる収益機会の拡大に注力してまいりました。

また、他社サービスとの連携も積極的に開始しており、具体的には、株式会社アクリートが提供するSMS（ショートメッセージサービス）配信サービス「SMSコネクト」と当社クラウド型コールセンターシステム「COLLABOS PHONE」とのシステム連携を開始し、サービス拡張や顧客拡大の仕組みを構築いたしました。さらに、データベース管理システム「Clarix FileMaker」のシステム開発を得意とする株式会社サポータスと販売パートナー契約を締結し、「COLLABOS PHONE」の販売体制を強化しております。一方、前年同四半期に新型コロナウイルス関連のスポット公共案件等の特需があったことによる売上高の減少も発生しております。

これらの結果、当第2四半期累計期間の売上高は、1,169,349千円（前年同期比0.4%減）となりました。製品・サービスごとの状況は、以下のとおりであります。なお、当社の事業はクラウドサービス事業の単一セグメントのため、セグメント別の記載はしていません。

■@nyplace

AVAYA社製交換機を使用したハードフォン型コールセンターシステム「@nyplace」につきましては、オンプレミス型からクラウド型への新規リプレイス案件の獲得や既存顧客において、公共案件や通販業務の拡大等に伴う契約数の増加があったものの、前年同四半期に交換機拡張の大型案件等があったことによる一時売上高の減少や新型コロナウイルス関連のスポット公共案件の業務終了等による契約数の減少、顧客の全社的なシステム統合に伴う解約等により、期間平均利用席数は7,717席（同74席減）、売上高は790,911千円（同1.0%減）となりました。

■COLLABOS PHONE

自社開発によるソフトフォン型コールセンターシステム「COLLABOS PHONE」につきましては、新型コロナウイルス関連のスポット公共案件の業務終了等による売上高の減少があるものの、機能とコストのバランスが必要にマッチしていることから新規案件が堅調に増加し、期間平均利用チャネル数は3,640チャネル（同406チャネル増）、売上高は241,857千円（同1.3%増）となりました。

■COLLABOS CRM及びCOLLABOS CRM Outbound Edition

コールセンター利用に特化した顧客情報管理システム「COLLABOS CRM」及び「COLLABOS CRM Outbound Edition」につきましては、新規案件の獲得やBPO事業者等の業務拡大に伴う契約数の増加があった一方で、新型コロナウイルス関連のスポット公共案件の業務終了等による契約数の減少により、「COLLABOS CRM」の期間平均利用ID数は2,283ID（同205ID減）、売上高は72,541千円（同6.2%減）、「COLLABOS CRM Outbound Edition」の期間平均利用ID数は615ID（同265ID減）、売上高は17,970千円（同18.4%減）となりました。

■その他

その他、業務効率化のサービスにつきましては、既存顧客へ向けたクロスセルにより、音声認識システム「AmiVoice Communication Suite provided by コラボス」の新規獲得やAIデータ解析サービス「GOLDEN LIST」、AR（拡張現実）とAI（人工知能）を活用した次世代のビジュアルカスタマーアシスタンス・ソリューション「TechSee」等の新規案件獲得により、売上高は46,068千円（同24.9%増）となりました。

売上原価につきましては、706,206千円（同1.0%増）となりました。主な要因としては、前年同四半期における交換機拡張の大型案件を含む仕入原価の減少や、新型コロナウイルス関連のスポット公共案件の業務終了等に伴う通信利用料の減少等があった一方で、中期経営計画における新サービス「GROWCE」のソフトウェア償却費等の先行コストが発生したためであります。サービス別の売上原価の内訳としては、「@nyplace」関連は、457,718千円（同0.5%減）、「COLLABOS PHONE」は、160,162千円（同11.1%減）、「COLLABOS CRM（Outbound Edition含む）」は、30,562千円（同4.7%増）、「その他」は、57,763千円（同95.7%増）となりました。

販売費及び一般管理費につきましては、415,428千円（同0.2%増）となりました。主な要因としては、前年同四半期における「GROWCE」の開発業務委託費等の減少があった一方で、本社移転に伴う減価償却費の増加、中期経営計画における開発推進及びサービス提供における運用体制強化に伴う人件費の増加等によるものであります。

これらの結果、営業利益につきましては47,713千円（同21.2%減）、経常利益につきましては47,881千円（同26.5%減）となりました。なお、本社移転に伴う重複家賃等の特別損失の計上により、四半期純利益につきましては27,188千円（同36.8%減）となりました。

財政状態

(資産)

当第2四半期会計期間末における総資産は、前事業年度末に比べて38,484千円減少し、2,335,886千円となりました。主な要因は、新サービス及び現有サービスへのITソリューション開発投資等の無形固定資産の増加、「@nyplace」用設備への投資等に伴う有形固定資産の増加があった一方で、現金及び預金の減少によるものであります。

(負債)

当第2四半期会計期間末における負債は、前事業年度末に比べて65,490千円減少し、430,332千円となりました。主な要因は、資産除去債務の減少、賞与引当金の減少、未払法人税等の納付による減少によるものであります。

(純資産)

当第2四半期会計期間末における純資産は、前事業年度末に比べて27,005千円増加し、1,905,553千円となりました。主な要因は、利益剰余金の増加によるものであります。

キャッシュ・フローの状況

当第2四半期累計期間における現金及び現金同等物の期末残高は、前事業年度末と比べて215,270千円減少し、1,343,325千円となりました。

当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期累計期間における営業活動の結果得られた資金は、40,788千円（前年同四半期は147,287千円の収入）となりました。主な要因は、法人税等の支払い137,932千円、その他の減少50,896千円があった一方で、税引前四半期純利益40,566千円、減価償却費108,317千円によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期累計期間における投資活動の結果支出した資金は、213,594千円（前年同四半期は79,419千円の支出）となりました。主な要因は、「@nyplace」用設備への投資や新サービス及び現有サービスへのITソリューション開発投資等の有形及び無形固定資産の取得による支出173,994千円、資産除去債務の履行による支出39,600千円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期累計期間における財務活動の結果支出した資金は、42,464千円（前年同四半期は44,059千円の支出）となりました。主な要因は、リース債務の返済による支出42,464千円によるものであります。

(2) 経営方針・経営戦略等

当第2四半期累計期間において、当社の経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(3) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第2四半期累計期間において、当社が優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

3【経営上の重要な契約等】

当第2四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	11,990,400
計	11,990,400

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2022年9月30日)	提出日現在発行数(株) (2022年11月10日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	4,791,600	4,791,600	東京証券取引所 (グロース市場)	権利内容に何ら限定 のない当社における 標準となる株式であ り、単元株式数は100 株であります。
計	4,791,600	4,791,600	—	—

(注)「提出日現在発行数」欄には、2022年11月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
2022年7月1日～ 2022年9月30日	-	4,791,600	-	324,854	-	304,854

(5) 【大株主の状況】

2022年 9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合 (%)
茂木 貴雄	東京都世田谷区	1,741,300	37.84
コムテック株式会社	神奈川県小田原市城山三丁目 8 番17号	578,600	12.57
株式会社アドバンスト・メディア	東京都豊島区東池袋三丁目 1 番 1 号	112,200	2.44
吉川 直樹	東京都港区	112,000	2.43
鈴木 智博	石川県金沢市	73,000	1.59
中村 崇則	東京都港区	73,000	1.59
小川 勇樹	埼玉県さいたま市浦和区	54,000	1.17
株式会社アイカム	東京都文京区後楽二丁目 3 番28号	49,800	1.08
株式会社S B I証券	東京都港区六本木一丁目 6 番 1 号	43,319	0.94
小久保 雄史	大阪府大阪市北区	41,000	0.89
計	-	2,878,219	62.55

(注) 発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合(%)は、小数点第3位以下を四捨五入して表示しております。

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2022年 9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 190,000	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 4,600,200	46,002	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であり、単元株式数は100株であります。
単元未満株式	普通株式 1,400	-	-
発行済株式総数	4,791,600	-	-
総株主の議決権	-	46,002	-

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式が95株含まれております。

【自己株式等】

2022年 9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数 に対する所有株式 数の割合 (%)
株式会社コラボス	東京都千代田区三番町 8 番地 1	190,000	-	190,000	3.97
計	-	190,000	-	190,000	3.97

2【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間において、役員の異動は次のとおりであります。

役職の異動

氏名	新役職	現役職	異動年月日
青本 真人	代表取締役副社長 管理部管掌 管理部長	代表取締役副社長 管理部管掌 管理部長兼 内部監査室長	2022年 7 月 1 日

なお、当四半期累計期間終了後、当四半期報告書提出日までの役員の異動は、次のとおりであります。

役職の異動

氏名	新役職	現役職	異動年月日
茂木 貴雄	代表取締役社長	代表取締役社長 システムオペレーション部管掌	2022年10月 1 日
齋藤 一紀	取締役 戦略開発部管掌 兼システムオペレーション部管掌 戦略開発部長兼戦略開発課長	取締役 戦略開発部管掌 戦略開発部長兼戦略開発課長	2022年10月 1 日

第4【経理の状況】

1 四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第63号）に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期会計期間（2022年7月1日から2022年9月30日まで）及び第2四半期累計期間（2022年4月1日から2022年9月30日まで）に係る四半期財務諸表について、アーク有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

3 四半期連結財務諸表について

当社は子会社がありませんので、四半期連結財務諸表は作成しておりません。

1 【四半期財務諸表】

(1) 【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年 3 月31日)	当第 2 四半期会計期間 (2022年 9 月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,558,596	1,343,325
売掛金	245,750	236,009
商品及び製品	711	7
前払費用	27,597	33,944
その他	153	10,299
貸倒引当金	98	94
流動資産合計	1,832,709	1,623,492
固定資産		
有形固定資産		
建物	74,995	20,000
減価償却累計額	59,563	834
建物（純額）	15,431	19,165
工具、器具及び備品	433,173	454,751
減価償却累計額	400,129	408,445
工具、器具及び備品（純額）	33,043	46,305
リース資産	540,645	575,328
減価償却累計額	391,864	418,386
リース資産（純額）	148,781	156,941
有形固定資産合計	197,256	222,412
無形固定資産		
ソフトウェア	171,367	147,458
ソフトウェア仮勘定	23,851	194,217
その他	2,379	2,277
無形固定資産合計	197,598	343,953
投資その他の資産		
関係会社株式	14,111	14,111
長期前払費用	2,323	2,292
差入保証金	61,529	60,783
破産更生債権等	1,196	1,192
繰延税金資産	67,870	67,870
貸倒引当金	225	220
投資その他の資産合計	146,805	146,028
固定資産合計	541,661	712,394
資産合計	2,374,371	2,335,886

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年 3月31日)	当第2四半期会計期間 (2022年 9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	108,969	112,750
短期借入金	10,000	10,000
リース債務	83,818	74,612
未払金	19,316	60,913
未払費用	7,518	1,520
未払法人税等	44,680	19,795
未払消費税等	17,777	-
前受金	9,220	11,778
賞与引当金	65,500	36,800
役員賞与引当金	4,600	-
資産除去債務	41,501	-
その他	4,223	4,462
流動負債合計	417,126	332,633
固定負債		
リース債務	78,696	97,699
固定負債合計	78,696	97,699
負債合計	495,823	430,332
純資産の部		
株主資本		
資本金	324,854	324,854
資本剰余金		
資本準備金	304,854	304,854
資本剰余金合計	304,854	304,854
利益剰余金		
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	1,339,685	1,366,873
利益剰余金合計	1,339,685	1,366,873
自己株式	122,030	122,030
株主資本合計	1,847,364	1,874,553
新株予約権	31,183	31,000
純資産合計	1,878,548	1,905,553
負債純資産合計	2,374,371	2,335,886

(2) 【四半期損益計算書】
【第2四半期累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
売上高	1,173,933	1,169,349
売上原価	698,935	706,206
売上総利益	474,998	463,142
販売費及び一般管理費	414,465	415,428
営業利益	60,532	47,713
営業外収益		
受取利息	7	7
違約金収入	2,145	261
助成金収入	3,583	1,147
雑収入	133	3
営業外収益合計	5,870	1,420
営業外費用		
支払利息	1,285	1,252
営業外費用合計	1,285	1,252
経常利益	65,117	47,881
特別利益		
新株予約権戻入益	-	183
特別利益合計	-	183
特別損失		
本社移転費用	-	7,498
特別損失合計	-	7,498
税引前四半期純利益	65,117	40,566
法人税等	22,097	13,377
四半期純利益	43,020	27,188

(3) 【四半期キャッシュ・フロー計算書】

(単位 : 千円)

	前第 2 四半期累計期間 (自 2021年 4 月 1 日 至 2021年 9 月30日)	当第 2 四半期累計期間 (自 2022年 4 月 1 日 至 2022年 9 月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	65,117	40,566
減価償却費	77,671	108,317
新株予約権戻入益	-	183
賞与引当金の増減額 (は減少)	24,000	28,700
役員賞与引当金の増減額 (は減少)	2,000	4,600
貸倒引当金の増減額 (は減少)	9	8
受取利息及び受取配当金	7	7
支払利息	1,285	1,252
売上債権の増減額 (は増加)	15,683	9,740
棚卸資産の増減額 (は増加)	568	703
仕入債務の増減額 (は減少)	16,490	3,781
その他	24,274	50,896
小計	144,406	79,965
利息及び配当金の受取額	7	7
利息の支払額	1,288	1,251
法人税等の支払額又は還付額 (は支払)	4,162	37,932
営業活動によるキャッシュ・フロー	147,287	40,788
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	12,505	24,830
無形固定資産の取得による支出	66,913	149,164
資産除去債務の履行による支出	-	39,600
投資活動によるキャッシュ・フロー	79,419	213,594
財務活動によるキャッシュ・フロー		
リース債務の返済による支出	44,059	42,464
財務活動によるキャッシュ・フロー	44,059	42,464
現金及び現金同等物の増減額 (は減少)	23,809	215,270
現金及び現金同等物の期首残高	1,539,510	1,558,596
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,563,319	1,343,325

【注記事項】

(会計上の見積りの変更)

第 1 四半期会計期間において、本社を移転したことに伴い、利用不能となった固定資産について耐用年数を短縮し、将来にわたり変更しております。また、不動産賃貸借契約に基づく原状回復義務に係る資産除去債務について、原状回復費用に関して見積りの変更を行いました。

これにより、従来の方と比べて、当第 2 四半期累計期間の営業利益、経常利益及び税引前四半期純利益は 3,688 千円減少しております。

(四半期財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第 2 四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(追加情報)

当第 2 四半期累計期間における、新型コロナウイルス感染症拡大の影響に関する仮定については、前事業年度の有価証券報告書の記載時点より重要な変更はありません。

(四半期損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第 2 四半期累計期間 (自 2021 年 4 月 1 日 至 2021 年 9 月 30 日)	当第 2 四半期累計期間 (自 2022 年 4 月 1 日 至 2022 年 9 月 30 日)
給料手当	143,028 千円	150,772 千円
賞与引当金繰入額	44,000 千円	36,800 千円
役員賞与引当金繰入額	2,000 千円	- 千円

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第 2 四半期累計期間 (自 2021 年 4 月 1 日 至 2021 年 9 月 30 日)	当第 2 四半期累計期間 (自 2022 年 4 月 1 日 至 2022 年 9 月 30 日)
現金及び預金勘定	1,563,319 千円	1,343,325 千円
現金及び現金同等物	1,563,319 千円	1,343,325 千円

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

当社は、クラウドサービス事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

当第2四半期累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

当社は、クラウドサービス事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(収益認識関係)

収益認識のサービス別及び時期別に分解した金額は、以下のとおりであります。

前第2四半期累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

(単位:千円)

	クラウドサービス事業	合計
サービス別		
@nyplace	798,997	798,997
COLLABOS PHONE	238,744	238,744
COLLABOS CRM	77,305	77,305
COLLABOS CRM Outbound Edition	22,012	22,012
その他	36,873	36,873
合計	1,173,933	1,173,933
収益認識の時期		
一時点で移転される財又はサービス	106,006	106,006
一定期間で移転される財又はサービス	1,067,927	1,067,927
合計	1,173,933	1,173,933

当第2四半期累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

(単位:千円)

	クラウドサービス事業	合計
サービス別		
@nyplace	790,911	790,911
COLLABOS PHONE	241,857	241,857
COLLABOS CRM	72,541	72,541
COLLABOS CRM Outbound Edition	17,970	17,970
その他	46,068	46,068
合計	1,169,349	1,169,349
収益認識の時期		
一時点で移転される財又はサービス	81,685	81,685
一定期間で移転される財又はサービス	1,087,663	1,087,663
合計	1,169,349	1,169,349

(1 株当たり情報)

1 株当たり四半期純利益及び算定上の基礎、潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第 2 四半期累計期間 (自 2021年 4 月 1 日 至 2021年 9 月30日)	当第 2 四半期累計期間 (自 2022年 4 月 1 日 至 2022年 9 月30日)
(1) 1 株当たり四半期純利益	9.27円	5.91円
(算定上の基礎)		
四半期純利益 (千円)	43,020	27,188
普通株主に帰属しない金額 (千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益 (千円)	43,020	27,188
普通株式の期中平均株式数 (株)	4,641,505	4,601,505
(2) 潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益	9.08円	5.82円
(算定上の基礎)		
四半期純利益調整額 (千円)	-	-
普通株式増加数 (株)	94,674	67,025
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式で、前事業年度末から重要な変動があったものの概要	-	-

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2022年11月10日

株式会社コラボス
取締役会 御中

アーク有限責任監査法人
東京オフィス

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 村瀬 征雄

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 渡部 源一

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社コラボスの2022年4月1日から2023年3月31日までの第22期事業年度の第2四半期会計期間（2022年7月1日から2022年9月30日まで）及び第2四半期累計期間（2022年4月1日から2022年9月30日まで）に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書、四半期キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社コラボスの2022年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

その他の事項

会社の2022年3月31日をもって終了した前事業年度の第2四半期会計期間及び第2四半期累計期間に係る四半期財務諸表並びに前事業年度の財務諸表は、それぞれ、前任監査人によって四半期レビュー及び監査が実施されている。前任監査人は、当該四半期財務諸表に対して2021年11月11日付けで無限定の結論を表明しており、また、当該財務諸表に対して2022年6月22日付けで無限定適正意見を表明している。

四半期財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。

- ・ 四半期財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. X B R L データは四半期レビューの対象には含まれていません。